

2026 年度支援展覧会選考結果

2026 年 8 月 23 日(日曜)、小川知子(大阪中之島美術館主任学芸員)、実方葉子(泉屋博古館学芸部長)、吉岡洋(京都芸術大学文明哲学研究所教授)、岩城見一(京都大学名誉教授元京都国立近代美術館館長、本財団代表理事)、井面信行(近畿大学名誉教授、本財団理事)を選考委員として、2026 年度支援展覧会選考委員会が開かれました。まず、委員の互選により、吉岡洋委員が委員長に選ばれ、次いで、応募のあった 4 件の展覧会について審議が行われ、その結果、2 件の展示企画に対して、支援を行うことが決定されました。なお、委員会終了後、来年度の公募に向けて、応募条件や支援件数、募集期間、広報の仕方などについて議論が行われ、支援事業の趣旨を明確かつ正確に広報する必要性が確認されたことを記しておきます。

選評

委員長 吉岡洋

応募件数は全部で 4 件であり、内容的にはいずれも意義深い提案ではあったが、企画における明確な方向性を重視するという点から判断して、本支援事業の趣旨に合致するものとして以下が採択された。

■展覧会名: アンドレア・カリーニ Andrea Carini 個展(仮)

会場: トアロード画廊(神戸)

会期: 2027 年 4 月(予定)

企画: 石橋宗明(トアロード画廊代表)

【支援金額】40 万円

【選評】日本の染や織などの美術工芸にも造詣が深く、また修復という仕事を持ちながら自身の芸術表現も追求してきたイタリアの美術家アンドレア・カリーニの作品を、作家が関心を抱いて撮影してきた建築物の写真と組み合わせながら展示するという企画意図が評価された。

■展覧会名: inter/cross #1 ここは私の遊び場―「部屋」と「公園」をめぐるいくつかの実践(仮)

会場: 京都芸術センター

会期: 2027 年 4 月 10 日(土)～6 月 7 日(日)10:00～20:00(仮)

企画: 西田祥子(京都芸術センタープログラムディレクター)

【支援金額】60 万円

【選評】表現手法も作品の方向性も異なる 3 人の女性アーティストを取り上げ、各々の作品が京都という街の空間で相互作用することによって、規範的な公共空間と私的空間の固有性との間に交流・交雑を生み出すことを試みるという、意欲的な展覧会企画であり成果が期待される。